

04

古典印画技法による 写真プリントの再思考

Re-thought of photographic print
by Alternative Process

映像メディア学科・助手
Department of Visual Media・Research Associate

横山 達也 Tatsuya YOKOYAMA

はじめに

本稿の研究活動報告書は、古典印画技法による写真のプリントを再思考する目的として著者が企画をおこない、学生たちとの実験と研究の成果とそれに伴う活動の報告である。主に展覧会「定着する記憶」の実施報告と古典印画技法によるワークショップ実施報告になる。展覧会は、名古屋学芸大学映像メディア学科の学生19名と大学院生1名と共に、2015年9月19日～9月23日まで、名古屋市市政資料館にて開催されたもので、古典印画技法のワークショップは名古屋を中心に学生たちと実施してきたものになる。本稿ではこの企画背景と制作背景からその成果の活動報告をする。



写真1:「定着する記憶～古典印画技法の再思考」フライヤー表裏

1 企画背景

古典印画技法とは、19世紀初期頃から盛んに行われてきた写真の印画技法であり、オルタナティブプロセスとも言われています。代表的なものとして、ダゲレオタイプ、湿板写真、鶏卵紙、サイアノタイプ、ヴァンダイク、カリタイプ、プラチナプリントなどがあり、主に銀塩写真(ゼラチンシルバープリント)以外の写真印画技法を意味します。これらの技法は全て一枚一枚が手作業で、手間と時間がかかる制作方法になります。そのため、全てが世界に一枚限りのオリジナルとなるため、プリントとしての価値はありますが、失われつつある技法となっております。

本企画では、これらの失われつつある技法を復元や再現を試みると同時に追体験することによって、現代のデジタル技術の革新とインクジェットプリンタの性能向上により、変貌しつつある写真の在り方を再思考できるのではないかと考え企画しました。そして古典印画技法を再思考する目的として、学生たちと研究・実験をおこない、その成果を報告する場として展覧会を実施しました。さらに、この目的の一環として、多くの方にこの技法の魅力と価値を伝えるために、名古屋を中心にワークショップも企画。

2 制作

古典印画技法はなんでもない紙に感光薬品を塗布することによって、写真用の印画紙となり、感光性を持ちます。ただ感光性は低いため取り扱い上で暗室までは必要としません。そこにプリントサイズと同じサイズのネガを密着させて、太陽光で露光することによって、紙に像が焼き付けられます。その後、紙を現像処理することによって像が浮かび上がり写真が出来上がります。この制作過程において重要になってくるポイントとして、紙の選定と薬品の相性、プリントサイズのネガの作成、太陽光による露光です。

紙の選定と薬品の相性に関しては、紙は薬品の処理や現像の工程などで水を使用するため、耐水性の高い紙を使用します。さらに紙のテクスチャーが作品にそのまま反映するため、作品に合わせて選定します。その際に薬品を塗布して、相性がよいかを実験しながら選定していきます。

ネガはデジタルネガフィルムというインクジェットプリンターで作ることができる写真用のネガを使用します。これは、デジタルで撮影された写真データから写真用のネガにすることができるものです。ただ古典印画技法はそれぞれの技法によってネガの濃度が違うため、それぞれの技法にあった濃度をその都度実験し調整しなくてはなりません。

太陽光での露光は、適正な露光量を固定することが難しく、その日の天候に左右されるため、的確なデータを取ることができません。感光薬品は紫外線にのみ感光する成分のため、紫外線ライトで露光することもできます。しかし古典印画技法で作成された印画紙は、一枚一枚が手作業での制作になるため、全てを同じ条件で作ることが難しくなります。そのため何度かの実験を繰り返し、データを取るしかありません。

学生たちはこれらの実験を繰り返し、大量のデータを取りながら作品を制作していきました。



写真2: 展示会場

3 展示

展示は古典印画技法を用いて制作された写真作品を、名古屋市市政資料館という場に合わせて構成することを学生たちに条件として出した。この名古屋市市政資料館という場所は、1922年に建築された旧名古屋控訴院・地方裁判所・区裁判所庁舎であり、国の重要文化財に指定されている施設である。こうした歴史的背景と建築美を兼ね備えた空間で、学生たちは写真をどのように扱い展示するかを、空間に合わせて展示計画を考察しなくてはならない。さらにそれぞれの部屋がホワイトキューブ形式のギャラリーとは違い、写真資料2のような展示空間となっている。そして今回はこの名古屋市市政資料館にある、第1から第5まで全部で5部屋の展示部屋のうち、第2から第5までの4部屋を借りた。そのため作品を展示するにあたって、学生たちはまず各自で会場の下見に行ってもらい、展示計画を立ててもらった。後日大学でその展示計画のプレゼンテーションを行ってもらった上で、全体の展示計画を調整した後、改めて会場での最終的な展示計画を確認・決定をした。写真の古典印画技法をこの場で展示することにより、歴史的見解を図ろうとした。

『定着する記憶～古典印画技法の再思考～』

【会期】2015年9月19日(土)～9月23日(水)

【時間】9:00～17:00

【場所】名古屋市市政資料館

【出品者】

名古屋学芸大学大学院メディア造形研究科: 松浦拓也

名古屋学芸大学メディア造形学部映像メディア学科:

小川真希, 久原祐介, 榊原英恵, 澤平桂志, 白岩茉莉, 杉浦希恵, 田尻晃生, 山田憲子, 伊神幸奈, 関啓悟, 高尻悠汰, 中村正美, 安田まどか, 山田早織, 山村祐太郎, 伊藤志帆, 黒沼結, 西川恵介, 南亮太郎



写真3: 展示搬入風景

4 古典印画技法ワークショップ

ワークショップは教育の目的として学生が主体となり、実験と研究の成果から得た知識と経験を活かし、参加者に教える形式をとっております。内容は19世紀初期頃に盛んに行われていた、古典印画技法の写真プリントである、鶏卵紙を実際に体験できるように構成しております。鶏卵紙は紙焼きの中でも比較的初期の技法であり、初心者でも学びやすく、古典印画技法を体験するにあたって、一番体感しやすいと考えた。さらに、使用する薬品も比較的に安全性の高い薬品のみで行うことができるため、ワークショップを行う上での安全性を確保しやすいことから向いていた。工程は、学生たちが参加者に本日のワークショップについて説明の後、鶏卵紙に関しての概要を解説する。そして参加者からプリントするデジタル写真データを受け取り、そこからデジタルネガを作成。次に紙に感光性の薬品を塗布して印画紙を作成、そこにデジタルネガを密着、太陽光で露光・現像と薬品処理とおこない全て終わればプリントの完成。その後、完成した作品を参加者と一緒に鑑賞して終了となります。現在、ワークショップの活動は名古屋を中心に実施しており、より多くの方にこの失われつつある技法を知っていただくこと、その魅力を伝えることを目的として行われています。おかげさまでワークショップは毎回、多くの方に参加していただき、好評である。

『日光で受信：鶏卵紙プリントワークショップ』

【日程】2015年5月2日(土),10日(日)

【時間】1回目|10:30～,2回目|13:30～

【場所】名古屋テレビ塔

企画内容:

テレビ塔を中心に地域活性化企画として、「写真にまつわるエトセトラ展」が行われ、その中に企画の一つとして、実施された。受信と発信を写真の撮る行為と見せる行為に掛け合わせ、太陽光を受信して鶏卵紙プリントを作る企画です。

『あらたま父の日実験教室』

～手作り写真でお父さんにありがとうを伝えよう～

【日程】2015年6月20日(土)

【時間】11:00～16:00

【場所】イオンモール新瑞橋1Fセントラルコート

企画内容:

イオンモール新瑞橋を中心に、地元の方と協力して地域を活性化していくプロジェクトの一環で行われました。父の日になんで、子供を対象に昔ながらのプリント方法で、世界に一枚だけの手作り写真とメッセージカードを作ってお父さんにプレゼントする企画です。

『太陽で写真プリント!!』

【日程】2015年8月1日(土),2日(日)

【時間】11:00～15:30

【場所】ANEWAL Gallery(京都)

企画内容:

京都にあるANEWAL Galleryと言う、元綿糸問屋であった築120年の京町屋の1階を改装してギャラリーにした場所。ここを中心に地域社会の人と人、人と場所を芸術で繋がる場として、様々な企画が行われています。そして今回は、この場所で19世紀初期(今から約150年前)に行われていた写真のプリント技法である「古典印画技法」のワークショップを開催することとなりました。1日目には鶏卵紙プリント、2日目にはサイアノタイププリントを行いました。

『写真の技法について学ぶワークショップ』

【日程】2015年9月14日(月),10月17日(土)

【時間】13:30～17:00

【場所】名古屋学芸大学

企画内容:

名古屋市美術館のボランティア団体の方を対象に、名古屋市美術館が学外研修として「写真の技法について学ぶワークショップ」を著者へ依頼、大学で鶏卵紙プリントが体験できるように開催することとなりました。学芸員の方も来られ、ワークショップが終了後は学生たちと写真に関する簡単な座談会も開きました。

『写真の散歩道ワークショップ～写真の古典印画技法～』

【日程】①2015年11月28日(土),29日(日)

②2015年12月5日(土),6日(日)

【時間】全日1回目|11:00～,2回目|14:00～

【場所】名古屋テレビ塔

企画内容:

「写真の歴史を学び、そして未来の写真へ」として19世紀を代表する写真の古展印画技法である、鶏卵紙とサイアノタイプの技法を、本格的な体験ができるように企画されたワークショップです。11月28日(土)と29日(日)に鶏卵紙を実施、12月5日(土)と6日(日)にサイアノタイプを実施した。全日ともに2回実施。



写真4: 展示記録



写真8: 展示記録



写真5: 展示記録



写真9: 展示記録

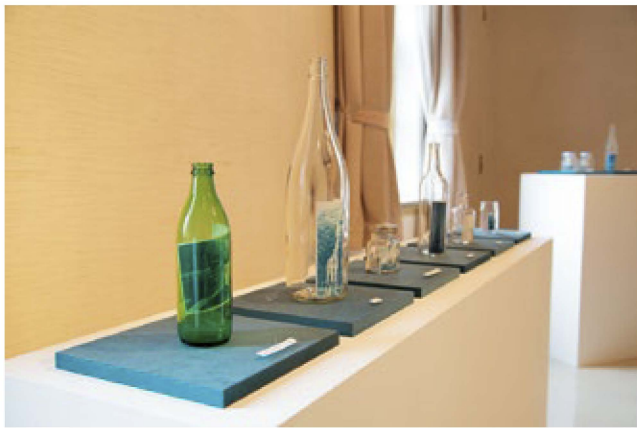


写真6: 展示記録



写真10: 展示記録



写真7: 展示記録



写真11: 展示記録



写真12:ワークショップ記録(日光で受信:鶏卵紙プリントワークショップ)



写真16:ワークショップ記録(日光で受信:鶏卵紙プリントワークショップ)



写真13:ワークショップ記録(あらたま父の日実験教室)



写真17:ワークショップ記録(あらたま父の日実験教室)



写真14:ワークショップ記録(太陽で写真プリント!!)



写真18:ワークショップ記録(太陽で写真プリント!!)



写真15:ワークショップ記録(写真の技法について学ぶワークショップ)



写真19:ワークショップ記録(写真の技法について学ぶワークショップ)



写真20:ワークショップ記録(写真の散歩道ワークショップ~写真の古典印画技法~)



写真21:ワークショップ記録(写真の散歩道ワークショップ~写真の古典印画技法~)

おわりに

古典印画技法を学ぶことによって、学生たちの制作現状からの原点回帰を図った。特にデジタル技術の革新に伴い、写真は誰もが触れることができる身近な存在になりました。そして、現状では写真をプリントするのではなく、デジタル画像として所有するように変貌してきています。さらにインクジェットプリンタの性能向上により、手軽に写真を何枚でもプリントできます。この現状において、手間と時間をかけて手作業で一枚限りのオリジナル写真をプリントする価値、形(プリント)として残す意味、それらの写真の在り方を考え直すきっかけとしては、この古典印画技法による原点回帰は意義あるものとなった。そのため学生たちは作品制作における制作意識への変革があり、見つめ直すための良い契機ともなりました。しかし、古典印画技法による作品制作は学生たちにとって、デジタルのように安易にはいかない点が多かったようで、一枚の写真をプリントするだけでもかなりの苦勞をしていたようだ。実験では、技法の再現だけでなく、その後の保存に関する実験も行っが、まだ確実な結果までは至っておらず、今後の課題となった。またこうした実験と研究に関して、今後学生たちが自主的に進めてくれることを期待したい。

展示においては、やはり名古屋市市政資料館という歴史的な建造物自体が出来上がった空間であるため、そこに新たに何かを設置することがかなり難しくなりました。どうしてもその場との関係性が求められたり、歴史的な存在感の差が出るため、作品が場から浮いてしまうことがわかった。だが写真作品の展示を行う上で、平面展示が基本だと考えていた学生たちにとっては、新たな表現手段を学ぶことができた場になったようです。

最後に古典印画技法を行うにあたって、作業上の注意点として薬品の取り扱いには十分注意して行わなくてはなりません。中には非常に危険性の高い薬品もあるため、安易に扱うことが難しいため、必ず薬品の取り扱いに従い、手袋やマスクをして安全面を考慮して行ってきました。みなさんが行われる際にも、十分注意して行ってください。



写真22: 冊子とDVD

写真22右: 鶏卵紙に関する資料をまとめた冊子「鶏卵紙のための覚書 Memorandum of Alternative process, Aibumen prints.」

写真22左: 鶏卵紙の制作工程を動画でまとめたDVD「Albumen Print Process 鶏卵紙のためのプロセス動画」

今回の実験と研究から得た資料を元に、今後写真資料2のような資料冊子とDVDを新たに残していきたいと考えており、製作中である。